

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	宮本 優帆
論文担当者	主査 波多野 悦朗
	副査 山門 亨一郎
	副査 若林 一郎
学位論文名	Association of the Modified ALBI Grade With
	Endoscopic Findings of Gastroesophageal Varices
	(Modified ALBI Grade と胃食道静脈瘤の内視鏡所見との関連)
論文審査の結果の要旨	
<p>食道・胃静脈瘤の内視鏡評価は肝硬変症の合併症の検索として重要である。しかしながら患者負担などの点から、非侵襲的検査による評価が試みられている。ALBI grade は 2015 年に提案されたアルブミン値とビリルビン値のみで肝予備能を grade 1-3 に分類する新たな評価指標であり、その後 grade2 の症例を 2a と 2b へと亜分類する modified ALBI (mALBI) grade が提案された。2018 年に代償性肝硬変において ALBI grade に血小板値を組み合わせた ALBI-PLT スコアが低値であれば、出血リスクを有する静脈瘤（高リスク静脈瘤）の合併は稀であることが報告されている。しかしながら mALBI grade と静脈瘤の内視鏡所見についての報告はないため、申請者らは今回の検討を行った。2008 年 10 月から 2015 年 12 月までに肝生検で組織学的に肝硬変（F4 stage）と確診され、かつ内視鏡による静脈瘤評価が可能であった 141 人を対象に ALBI grade (grade 1, 2, 3) および mALBI grade (grade 1, 2a, 2b, 3) と内視鏡所見の関係について検討した。症例は年齢中央値 63 歳、性別は男性 73 例、女性 68 例であった。ALBI および mALBI grade は grade1 が 25 例、grade 2 が 109 例（2a 40 例、2b 69 例）、grade 3 が 7 例であった。ALBI および mALBI grade での検討では、いずれも grade の上昇につれて静脈瘤の合併率、あるいは高リスク静脈瘤の合併率はいずれも増加した ($p < 0.05$)。また grade2b 以上 (grade 2b または 3) の症例では、grade 2a 以下 (grade 1 または 2a) の症例に比して、いずれの合併率も有意に高値であった ($p < 0.001$)。ALBI grade2 または 3 の患者での静脈瘤の合併率は、ALBI grade1 の患者と比較して有意に高かった。しかしながら更に grade 2 の症例を mALBI grade に基づき 2a と 2b に分けて検討すると、grade 2a の患者では grade1 の患者と静脈瘤・高リスク静脈瘤の合併率に有意な差はなく、一方で grade 2b の症例ではいずれも有意に高値であった。食道・胃静脈瘤の合併率は mALBI grade2a と 2b の間で異なると考えられた。mALBI grade による ALBI grade 2 の 2a と 2b への細分化は、食道胃静脈瘤の存在予測や出血リスク予測において、症例の層別化のために有用となる可能性が考えられた。本研究は肝硬変の診療において臨床上重要な知見と考えられ、学位論文に値すると判断した。</p>	